

## 令和6年度 施設管理運営事業評価票

### 1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立子ども館		
所在地		宝塚市山手台東1丁目4-1(山本山手) 長尾台1丁目1-1(ひばり) 中山桜台2丁目2-5(中山台)		
指定管理者	団体名	第6ブロック子ども館協議会	指定期間	開始日 令和2年4月1日
	所在地	宝塚市山手台東1丁目4-1		終了日 令和7年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年	指定期間5年のうち4年目
施設設置目的		児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするため。		
主な実施事業		①子どもの居場所づくり事業 ②地域子育て支援拠点事業 ③子ども、子育て家庭を中心とした地域のネットワークづくり事業 ④出前児童館事業		

### 2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用人数	人	6,420	6,482	6,420	10,075	6,420	12,303	10000	14,740
b 1日当たりの平均利用者数	人	-	27.01	-	36.37	-	41.99	-	50.83
c 児童館所在コミュニティブロック児童人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数	回	2.31	0.95	0.94	1.40	1.45	1.98	2.00	2.05
d 出前の利用者数	人	-	561	-	669	-	2,980	-	1,670
e									

### 3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算
収入計 A	22,075	22,024	22,218	22,047
指定管理料	22,041	22,021	22,021	22,021
利用料収入 C	0	0	0	0
自主事業収入	0	0	0	0
その他	34	3	197	26
支出計 B	21,186	21,790	22,103	22,044
指定事業費	21,186	21,790	22,103	22,044
内、人件費 D	18,395	19,005	19,317	19,443
内、再委託料 E	99	94	97	114
自主事業費	0	0	0	0
事業収支 A-B	889	234	115	3
利用料金比率 C/A	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
人件費率 D/B	86.8 %	87.2 %	87.4 %	88.2 %
再委託費比率 E/B	0.5 %	0.4 %	0.4 %	0.5 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注)自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	B	B
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A
	法令遵守等	外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	個人情報保護	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
		個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
	情報公開	個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
		情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
	管理記録	協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
		業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
連絡調整	点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A	
	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A	
緊急対応	市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A	
	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
財務状況	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A	
《 総括 》	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A	
	<b>「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】</b>	A	A	
②サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A
	事業運営	言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
	維持管理	施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	A
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
	環境配慮	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A
	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A
協定書等に従い、適切に修繕を行っている。		A	A	
苦情等対応	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A	
	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A	
利用者アンケート等	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A	
	要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
利用状況	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	B	B	
《 総括 》	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A	
	<b>「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】</b>	A	A	
③安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
《 総括 》	<b>「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設 項目】</b>	A	A	
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスが5類になり、普段の利用が増え、夏祭りや豆まきのイベントにも沢山の参加があった。コロナ前の賑わいが戻りつつある。</li> <li>・小学生の利用が増えるように外遊び実行委員を募集し、花咲く迷路やシャボン玉遊びを実施。早帰りの日は遠方の子どもたちも参加してくれるが、通常の時間割になると参加が難しい。子どもたちの意見が反映されるようアンケートを取り、小学生が乳幼児も楽しめる企画を実施してくれるよう働きかけていきたい。</li> <li>・近年の子育て状況や子どもの抱える課題に応じた情報発信ができるよう職員への研修も検討していきたい。</li> </ul>			
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	<p>未就園児親子は、子ども館のプログラムを楽しみに参加され、安心できる居場所として利用されている。児童が積極的に利用するには、子ども館の施設規模等から工夫が求められる中、丁寧に取り組みを進めている。今後も課題を整理しながら、子育て親子、児童にとって安心できる居場所となるよう更なる工夫に努めていきたい。</p>			
前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。